

ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

第59号

発行日 令和7年12月10日

発行者 根形交流センター

(根形公民館)

袖ヶ浦市下新田 1277

☎0438-62-6161

令和7年度 第39回 根形公民館まつり 地域の皆様 多くの来観有難うございました！

『つくろう そだてよう 心かよう 根形文化』をテーマに、11月1日・2日、「令和7年度第39回根形公民館まつり」を開催しました。根形公民館の登録サークル、利用者、地域の皆様、子どもたち等の日頃の学習成果を発表する機会を作るとともに、各種の催しをとおして、地域の交流の場とするべく開催しました。

初日は前日の雨にもかかわらず、来観者・発表者・スタッフを合わせて約1,300人、2日目約1,100人、2日間で合計約2,400人と多くの方に来観いただきました。誠に有難うございました。

なお、公民館まつりへのサークル等の参加団体は、以下のとおりです。

展示部門は25団体。内訳は、陶芸11（彩の会・亜々土・土喜・土楽・形・陶楽・椿・窯・四季・陶芸教室・ねこまろ）、絵画7（悠・快心・イーゼル・パレット・成人絵画教室・花まる絵画教室・子ども絵画教室）、書道1（望陀書友会）、その他6（写団上総・根形保育所・根形小学校・根形中学校・上総掘り保存会・篠笛の会）です。

発表部門は14団体。タンポポ・ジュニアお箏教室もみじ・篠笛の会・AUKANA・華の会・上総シニアアンサンブル・DSCシルエット・NESUPOフラダンスシアレア・袖ヶ浦市ジュニアオーケストラ・吟詠雲風会・榎若小勸・和太鼓・袖ヶ浦高校音楽部、根形中学校吹奏楽部です。

体験部門は10種類。スポーツ吹き矢・カントリーダンス・インドアローンボウルズ・インディアカ・昔遊び・テニス・親子陶芸・油絵体験・石膏手形と木工体験です。その他にも、消防車両展示・農産物等即売・本のリサイクル市・陶芸作品即売・焼きそば販売・パン販売・豚汁販売・飲み物販売・揚げ物等販売・クッキー等の販売と、全部で59の団体に参加していただきました。素晴らしい作品の出展や発表をはじめ、多くの方にご協力いただき、誠に有難うございました。



音楽発表会



模擬店

第39回公民館まつりの続き(フォトメモリアル)



陶芸体験



すきすき絵本タイム



石膏体験



根形小・中作品展示



テニス講習



袖ヶ浦高校音楽部演奏

根形小学校で防災学習会を実施しました！

9月3日（水）午前、根形小学校全児童を対象に、小学校と根形公民館共催による防災学習会を開催しました。地震災害を想定し、実際に地震が起こった時の避難の仕方や小学校の体育館が避難所となった時の様子等を学ぶことを通じて、防災に対する意識を高めることを目的に実施しました。

講話では、市役所防災安全課の職員が講師となり、自然災害の恐ろしさやその対策、避難方法、さらに袖ヶ浦市・根形地区の災害リスク・避難所等についてリモートで行いました。児童たちは各教室で真剣なまなざしで視聴していました。

体育館での模擬避難所見学は1・5・6年生を対象に実施し、防災安全課の職員が講師となり、避難所内に設置するワンタッチパーテーション、簡易ファミリールーム、段ボールベッドなどを使用したプライバシー保護や感染症対策、段ボールベッドの寝心地を体感しました。

また、小学校の災害用備蓄倉庫に備えられている備蓄品（かまど、チェンソー、発電機、鍋、非常食、飲料水、保健用品など）を確認しました。



令和7年度「明るい家庭づくりと 青少年の非行防止」標語審査結果

「根っ子の会」では、未来を担う青少年の健全育成を推進するため、小中学生から「明るい家庭づくりと青少年の非行防止」標語を募集しました。

各クラスから選出された作品1点を優秀作品とするとともに、その中から小中学校それぞれ1作品を最優秀賞として選び、根形地区に啓発看板として掲示します。

今年度の最優秀賞は、次の2点です。

◎小学校最優秀賞（3年生）

「大丈夫？ その優しさが 救いの手」

◎中学校最優秀賞（3年生）

「気にかける 君の心に 虹かける」

予告！



3/14～3/22
(土) (日)

サークル作品展 只今準備中

毎年恒例の「根形公民館サークル作品展」。今年で20回目となる作品展開催に向けて、現在準備を進めています。

日頃、根形交流センターで活動している絵画、書道、陶芸の各サークルによる、一年間の創作活動の集大成となる作品展です。ぜひ、お出かけの予定に入れておいてください。



66 根形公民館 主催講座 紹介 66



『地域再発見講座』が、今盛り上がっています！

「地域再発見講座」は、地域の成り立ちや歴史・文化等に触れ、過去から現代の課題を見つけ、希望にあふれた未来へ向けて学習することを目的に開設しています。なお、今年度のテーマは「地域を再発見し、過去から現在そして未来へ希望をつなごう」で、市内各地区から24名の応募があり、年間7回の講座を通して学習を深めています。

第1回は、6月19日（木）「村のくらしと一大事 ～江戸時代の事件記録を読む～」と題し、袖ヶ浦市内で発生した江戸時代の刑事事件に関係した古文書を読み解きました。第2回は、7月14日（月）館山海軍航空隊赤山地下壕跡を見学しました。第3回は、9月11日（木）「郷土博物館バックヤード探検ツアー」と題し、郷土博物館のいろいろな倉庫に保管されている貴重なお宝（遺品や書物、美術品、工具、農機具、剥製など）を見学しました。第4回は、大多喜城下に点在する貴重な史跡や文化・歴史遺産を大多喜町城下町案内人の会の方に丁寧に案内していただき、古き街並みを散策しました。第5回は、11月17日（月）日本製鉄（株）東日本製鉄所君津地区の工場見学をしました。第6回は袖ヶ浦市椎の森工業団地のサニークリーン工場見学を、第7回は「戦後80年を考えよう」と題する講話を予定しています。興味関心のある方は、根形交流センターまでお問い合わせ下さい。



館山海軍航空隊赤山地下壕跡見学



郷土博物館バックヤード探検ツアー



大多喜城下町見学

根形歴史さんぽ 根形のお庚申さま

郷土博物館 稲木章宏

かつて日本各地で信仰されていた庚申信仰、ここ根形でもその石塔「庚申塔」が見られます。一般的には「お庚申さま」と親しまれています。

では、どんな信仰かというと、60 日毎に廻ってくる庚申(かのえさる)の夜、人が寝入ると体の中に住む三尸(さんし)という虫が抜け出て、天に住む天帝に、その人の犯した罪を報告に行き、この罪の重さによって、命の長さが決められるというものでした。そこで村人たちは集まって、三尸が天帝に報告することを防ぐため、一晩中眠らずに過ごし、長命を願ったのです。これは平安時代から貴族の間で広まり、やがて江戸時代には庶民の間で大流行しました。しかし、明治になるとほぼ忘れ去られてしまった民間信仰なのです。

市内では、今のところ 80 数基の庚申塔が見つかっており、ここ根形地区では10基知ら



れています。市内最初の庚申塔は上宮田区の八幡神社の寛文2(1662)年造立ですが、10年後には三ツ作区の妙見神社にも造立されました(左)。



庚申塔の特徴として、三匹の申(猿)があげられます。申は山王さまのお使いとされ、最初は正面を向いておとなしく座っていますが、やがて両脇の二匹が中央を向き、そして



後には自由な姿勢で彫られることが多くなっていきます。また主尊には青面金剛(しょうめんこんごう)が登場し、市内でも寛文8(1668)年頃から確認できるようになります。



青面金剛は六本の腕に剣・鉾・宝輪・弓・矢、そしてショケラと呼ばれる女性の髪

を掴む姿であり、怒りの表情で邪鬼を踏みつけています。上は野田区の常照寺の庚申塔で、享保19(1734)年に造立されたものです。青面金剛に背中を踏まれた邪鬼は身動きできないようです。

下は飯富区鏡ヶ峯にある庚申塔です。青面金剛のような主尊が鎗のような武器を両手で



持ち仁王立ちしています。邪鬼はいませんが、下部には三猿が彫られ、右から「見ざる、聞かざる、言わざる」の順で並んでいます。

上部に「山王宮」と刻まれていることから庚申塔と判断されますが、青面金剛としては極めて珍しいお姿といえます。